

第2回大川市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事要旨

日時：令和5年12月13（水）15：30～17：00

場所：大川市役所3階大会議室

出席者：委員：松岡、高橋、古賀、中村、中島、添島、藤岡（以下、委）、大庭（以下、大）

事務局：大川市 井口、田中、東（以下、市）
福岡県 松本（以下、県）※オブザーバー
都市環境研究所 池田、角田（以下、都）

1. 会長挨拶

2. 確認・協議事項

（1）第1回協議会の振り返り

特になし

（2）大川市文化財保存活用地域計画の工程表（案）について

特になし

（3）大川市の歴史文化の特徴や将来像について意見交換

●特徴について

エツについて

市）エツの禁漁期間は7月下旬～がよい。

都）修正する。

委）とれる期間はいつなのか。

市）5月1日～7月20日。

委）筑後川河口であれば、佐賀でもあるのか。

委）佐賀の諸富あたりまではある。市内は稚魚のから揚げ等になる。

委）刺身はここだけか。

委）そうである。

無形文化財について

市）無形文化財の七夕踊りは四つ竹おどりではないか。

都）修正する。

都）無形文化財で触れるべきものはなにかあるか。

委）日吉神社の船御輿、久留米藩の風浪宮の例大祭は久留米藩。これらを入れるのであれば、柳

河藩の小保の八幡宮例大祭も触れてほしい。

都) 各藩で祭りに違いがあるのか。

委) 風浪宮の例大祭に小保は参加しない。氏子が異なる。

委) どこからの時代を想定しているか、近代か江戸か。今の例大祭の形は江戸かどうかは分からない。

都) 対象もまだ定まっていない。話を聞いて、大川と小保との祭りの違い等をまとめられれば、大川らしさに繋がるのではと思った。

委) 風浪宮に関する古文書を整理した本が出版されている。確認して検証してほしい。

大) 無形文化財についてはボリュームが異なるため、書くかは検討が必要だと思うがどうか。

都) 小保八幡と風浪宮での書き分けで検証してみるが、言われる通り文章のボリュームが整わないようであれば、記載を削除することもあると思う。

大) 他に溶け込ませることもあるか。

都) 現状、無形文化財の全体像が取り上げにくい。柳川は水関係の祭りが多いが、大川では少ない。クリーク沿いに竹に藁をぶらさげる等も聞かない。

委) 船御輿が県指定有形文化財になっている船曳祭りがある。天草から来た志岐姓が船をつくる大工であり、その技術でつくったのが船御輿と伝わっている。長崎の榎津町（旧町名）にも似たような船がある。交流・交易の証として書いてはどうか。下流域、伝統産業の特徴に近づくのではないか。

都) 風浪宮も筑後川沿いの下流域から上がっていき、裸ん行もあり、触れた方が良いか。

委) 沖祭りもある。川に向かって社殿がたっている。御汐井取り、稚児行列（風浪宮）が風浪宮から日吉神社に来る。若津の三柱神社にもくる。

委) 昭和24年に始まった木工祭りというシンボリック祭りもある。

若津港について

委) 若津港の久留米藩としての存在意義について、本間氏作成資料を元に検証してほしい。

都) 史料を拝見し、反映できる箇所を検討する。

委) 若津港には遊郭街があったのか。

委) 江戸にはなかったのではないかと。明治以降だと思う。

委) 江戸末期にはあったのではないかと。思う。

委) 反映したのは明治大正期。

委) 筑紫亭は明治頃、遊郭のことを記載するのは明治でよいのではないかと。

委) 佐賀江藤新平の乱、佐賀藩庁を若津に一度置いたことがあるという文献があった。

委) 久留米藩の貿易港として、江戸時代に若津港は始まった。

文言について

大) 条里制時代は奈良時代の方がよい。藩名は柳河藩で統一。

委) 柳川城はどうか。

大) 城は川、藩は河。

大) 肥後街道は街道ではないのではないか。

委) 八女往還等か。

都) 確認する。

都) 大川の地名について、地名辞典によると大川口に由来するとあったが、再確認して問題なければ記載しようと思う。

全員) あまりなじみはない。

●将来像について

コンセプトについて

委) 醸成されるまちとはなにか。

都) 保存、活用、調査研究を官民協働で取り組んでいく思いを込めている。

委) 醸成という言葉は子供には難しい。

委) 子供は大川の歴史を知らない。学校でカリキュラムとして入っていないため、学校教育に取り入れるべき。そうすれば愛着に繋がると思う。教育のための大川市の歴史の本を一度作ったが、その後繋がっていない。

委) 小学校での社会科では日本の歴史を大まかにしか学ばない。総合的な学習では、年間70時間、ふるさと学習を学ぶプログラムをつくれるが、子供用の資料や映像がない。よって、子供たちは文化財がどこに何があるかさえ知らない。よかたいプロジェクトでの作業中のマップ等が今後役立つのではないかと思っている。

都) 学校教育課、小保・榎津藩境のまち保存会にもヒアリングを実施した。協力しながらやっていくことを目標として記載したい。

委) 久留米市との比較として、筑後川河口域、木工についてはどう思うか。

都) 前回の協議会では、できれば、大きなひとつの柱として特徴をまとめられたらと思ってはいたが、作業してみてもとめにくいと判断し、6つの柱に整理した。そのすべて筑後川で結びついているように特徴の整理を試みた。筑後川河口域、木工といったことも筑後川という中に含んでいるように考えている。

- 大) 将来像は今後ずっと続いていくものであるため、言葉選びは大事。協議してほしい。
- 都) 計画等の検討を進めつつ、また戻って考えていければと思っている。なお、協働は入れていきたいと個人的には思っている。
- 委) コンセプト、立ち返る場所とすると今の案は、どこでも通用するが、大川市らしさが出ていない。6つの柱には深く書かれているが、子供たち、将来に向かってのまちづくり 50・100年後どうしていくかも将来像には織り込んでいかなければならないと思う。
- 委) 方針の中で「教育」を上に出せないか。今の3つの柱に教育を追加できないか。そうすることが大川市らしい計画になるのでは？
- 都) 原案にある「積極的活用」を学校教育・障害が樟湯寄りのタイトルに変更する方向で検討する。

(4) 大川市文化財保存活用地域計画の課題・方針・措置について意見交換

- 委) 過去あったものが消失しているものを拾い上げるのはどうか。11月以降の冬場の風物詩であった「堀干し」がある。
- 市) 白垣はやっているのでは？
- 委) 護岸工事時にはやったかもしれないが、今はやっていないのではないか。
- 市) 下白垣で大学生がきてやっていたのではないか。
- 委) 今はやっていない。
- 都) 調査研究、生涯学習にいれるか。担い手はいるか。
- 委) 担い手はいない。堀に水を落とすことが出来ないため復活はできない。
- 都) 復活はできないが、調査研究をしていくことはできると思う。ただし、誰が調査研究するかは課題だと思う。検討したい。
- 委) 過去やっていたことを伝えていければよいと思う。
- 委) 市政50周年の時に市民有志で大川市の古写真を集め、写真集にしたことがある。その写真も提供するので、参考にして欲しい。
- 都) 実施主体について、民間主体の取組も書いていければ官民協働につながると思っている。
- 委) 官民協働については、小保・榎津藩境のまち保存会が率先してやっている。
- 都) 小保榎津は別枠で重点区域として検討中であり、市全域でも官民協働の取組を書き添えたいと思っている。
- 委) 課題・方針・措置表に課題が一つしか書かれていない。課題は複数出てくるのではないか。総合的な調査研究は全市的に必要であるという課題を書く必要があるのではないか。

3. その他

次回は令和6年2月中旬頃、大川市役所での開催を予定。
以上。